

トレンド観測 TREND WATCHING Theme

少多数の製本注文に対応 受注生産型デジタル印刷



多種多様な本が次々と刷り上がるアマソンのPOD施設—千葉県市川市のアマソンの印刷フィルムセンターで(アマゾンジャパン提供)

出版業界の救世主となるか

出版業界受注生産型... デジタル印刷の普及... 印刷・製本・配送するサービス... 印刷・製本・配送するサービス... 印刷・製本・配送するサービス...

移民政策をタブー視

政府は自治体任せ

今回のゲスト 毛受 敏浩さん



めんじゅ・としひろ 1954年生まれ、慶応大卒。米工バーグリーン大公共経営修士号取得。兵庫県庁で10年間勤務後、88年から日本国際交流センター。著書に「人口激減 移民は日本に必要である」『自治体がひらく日本の移民政策』など。



談笑する毛受敏浩さん(右)と森健さん —東京都千代田区で

森健の現代をみる

在留外国人の急増

日本に移住する外国人が急激に増加している。日本政府は「移民政策はとらぬ」としているが、本当にそれですか。受け入れ態勢の課題や展望について、公益財団法人・日本国際交流センター執行理事の毛受敏浩さんを招き、議論してもらった。

【構成・栗原俊雄、写真・根岸基弘】

森 在留外国人は6月末で63万人と、過去最多を更新し続けています。その中に日本人にあまり意識されていないのが、毛受さん。毛受さん、これぞ外国人は移民だ、過小評価されてきた存在だ、政府は移民政策を在留外国人の間に浸透させたいという立場で、支障をひたすら「帰れ」と言っているのではない、合法的に在留している外国人に対して、子どもの教育や日本語教育などさまざまな方針が定まっていな... 中絶準備など自主自治体任せしているのだから、ま自治体任せにはならない。森は地方創生が重要だ、毛受は人口減少だ、森は人口減少が重要だ、毛受は人口減少が重要だ...



もり・けん ジャーナリスト、1988年生まれ。早稲田大卒。在学中からライターを務めた。2012年『つなみ』の子どもたちで大宅壮一ノンフィクション賞、17年には小倉昌男 祈りと経営』で大宅壮一メモリアル日本ノンフィクション大賞受賞。

キーワード

注①—人手不足が深刻な建設、農業、介護、造船、宿泊の5業種。来年4月から受け入れる。注②—2017年10月現在、約25万8000人で外国人労働者全体の2割に当たる。受け入れ側の賃金未払いや長時間労働の問題も指摘されている。

生活者として暮らせる 社会保障や教育整備を

森 外国人の人口割合が10%と高い東京都新宿区など、超地域で高水準な生活が取り組まれている。毛受 日本は人口減少を懸念して、移民政策を推進している。森 移民政策を推進している。毛受 日本は人口減少を懸念して、移民政策を推進している。森 移民政策を推進している。毛受 日本は人口減少を懸念して、移民政策を推進している...

対談を聞いて

移民受け入れ反対論者の中には、かつての西ドイツの例を挙げた人がある。1960〜70年代にドイツ語ができない外国人を多数受け入れた結果、社会不安を招いた、という指摘だ。毛受さんは、それは西ドイツが適切な移民政策をとらなかつたから、と言う。2人の話から分る通り、現在の日本でもほころびがあちこちに見えている。本格的かつ迅速な制度の再建が必要だと痛感した。【栗原俊雄】